

能登半島から、

未来をつくる



オーガニックベース石川(株)

香土カグツチ 洲崎邦郎さん (石川県珠洲市、野々市市)

Midorist Vol.11

みどりすととして紹介したいな、と思つてあたため続けてしまつていたのが、オーガニックベース石川株式会社（珠洲市）の洲崎邦郎さんだ。私が石川に着任してから最初に目に留まつた、話を聞いてみたいと思った農業者。石川から持続可能な農業を考え、活動している人だ。

洲崎さんたちの取組は、能登半島を向いている。「能登半島に地球が喜ぶ農業の一大生産拠点を。農業と子供の未来をつくる。」これが洲崎さんたちの掲げるコンセプト。目標は、2030年までに能登半島に200ha規模の農薬や化学肥料を使わない野菜、穀類、果樹、畜産などの一大生産拠点を作ること。



ホテル勤務から農業への転身のきっかけは、最後に勤めていた兼六園にほど近い小さなホテルで、農家と出会ったことだった。ふだんホテルで提供する食事は、料理長とプランを相談して決め、そのプランに基づいて野菜を注文する。野菜は簡単に手に入るのが当たり前になっていた中で、農家さんから農業現場の話を聞き、気づけば頭の片隅でいつも「農業」という生業を考えるようになつた。

「野菜はいつでもあるわけではない、農家からしたら農家の言い分があるのではないか。一次産業から三次産業を見てみたいと思つたんです」、そう洲崎さんは話してくれた。

ために2021年には隣の野々市市に移転させ営業中だ。さらに、ベビーマッサージやヨガといったイベントも開催しており、地域の人々が集まる拠点にもなっている。

また、「香土カグツチの台所」として、石川県産の野菜を使ったランチ（月曜）やお弁当（木・金曜）も提供している。シェフの小津さんが、肉・魚・添加物を使わず、石川の旬の野菜を使って作ってくれる“身体とのう”食事が魅力的だ。

私も香土カグツチで買い物をさせてもらうが、行いなくたびにいろいろな野菜に出会えるのが楽しい。大きい店舗ではないのだが、土蔵を改装して作られた建物、内装デザインがなんとも心地いい。ランチをして、農家さんがこだわりを持つて作った野菜たちを選んで、小津さんにオススメの食べ方を教えてもらつておしゃべりして：と、束の間のほっこりした時間が過ごせる空間だ。

さらに洲崎さんは、2023年10月から珠洲市で約1haの農地を借り、「ファーマーズビレッジNOTO」と名付けて生産を行い、野菜などは学校給食への供給を目指している。

そして、農作業を行うのは農業従事者だけである必要はない、といいたる。ちょっと手伝つてみたい人、家庭菜園をする人、半農半Xの人、農家と関わりを持ちたい人、流通業に関わる人など、消費者

すべてひつくるめ、農業をもつと元気にしていとう思いで、仲間とクラウドファンディングにより、「村民」を集めた（ファーマーズビレッジ（村）なので「村民」としようと、100人の村民応募を得た。好きな時に農作業を手伝い、収穫し、自宅で味わうことができる仕組みを作ったのだ。珠洲の農地「ファーマーズビレッジNOTO」で、「村民」とともに農薬や化学肥料を使わない栽培を一層進め、これからは生物多様性などにももつと考慮して取り組んでいこう、という思いを強くした。



日本の食料自給率は低い（令和6年度…カロリー・ベース38%）。ウクライナ情勢からも明らかだが、国際紛争などの外的要因で円滑な輸入に支障をきたし、食料安全保障の根幹を揺るがす事態が引き起こされる。洲崎さんたちは、まずは石川県で消費者が安心して食卓を囲めるよう、食料自給率全国1位を目指す。

その手段の一つが、地産地消にこだわり石川県の野菜などだけを販売する八百屋「香土カグツチ」だ。有機JAS認証をうけている野菜、栽培期間中農薬不使用の野菜など、環境にも配慮して作られた野菜が並ぶ。旬な野菜セットの配達も行っている。消費者と生産者をつなげたいと思つた、と洲崎さん。

2017年に金沢市でオープン、その後、子育て世代のお母さんたちのおうちごはんを応援する

洲崎さんはこの日、金沢市内におり無事だったが、発災から3日後、珠洲市に入り言葉を失つた。珠洲市の納屋も母屋も全壊し、能登のしかし、こうした洲崎さんたちの取組を襲つたのが、2024年1月1日に発生した能登半島地震だった。

洲崎さんはこの日、金沢市内におり無事だったが、発災から3日後、珠洲市に入り言葉を失つた。珠洲市の納屋も母屋も全壊し、能登の



拠点を失った。もう農業はできないと思った。それでも知人に頼まれて、珠洲市の避難所で炊き出しを開始。石川県内や東京の仲間から届いた支援物資を被災者に配り、支援金は食材費にあてた。そして、仲間たちからの支援とエールに強く背中を押され、野々市市に一時的に拠点を移し、農業を再開した。

洲崎さんは一見穏やかそうだが、その言葉はまつすぐで重たい。誰もやらないなら自分がやる、そんな力強さも感じる。「能登半島を元気にしたい、地震からの復興こそ農業からだ。」私は取材しながら何度も洲崎さんの言葉が胸に刺さった。野々市を拠点に移しても、洲崎さんは能登半島への想いを忘れないことはない。

2025年は能登半島の農業を考える1年にする、そして、更なる活動を開始する、と洲崎さん。石川と東京がつながるプログラムを進めていこうとしているのだ。石川チームは野々市に刺さった。野々市を拠点に移しても、洲崎さんは能登半島への想いを忘れないことはない。

「ファーマーズビレッジNOTO」で検索し、洲崎さんの拠点である香土カグツチと畑で農作業や食のイベントを実施・参加し、東京チームは東京発のイベント等を企画・実施する。また、企業版ふるさと納税を活用したり、能登・石川の豊かな食や農を体験できるオーガニックツアーを企画したりすることも予定している。

ちなみに、洲崎さんは「+みどり計画」の第一回セミナー（初回特別企画として拡大版で開催）でも、講師の一人としてその取組をお話いただいたので、+みどり計画HPに掲載しているセミナーーアーカイブもご覧いただくと、より一層洲崎さんの想いを感じ取ることができると思う。これからも洲崎さんの取組を応援したく、私も村民登録をさせてもらっている。

取材の最後、なんと空にうつすらと虹がかかった。これから先、なにかいいことが起りそう、そんな予感をさせる一日となつた。



Writer: 首藤

DATA

農法：栽培期間中農薬・化学肥料不使用

品目：米、さつまいも、ばれいしょ、ねぎ、なす等

【香土カグツチ】
(直売所)
石川県野々市市
中林3-116
営業時間
10:00~17:00
定休日:火曜日

